

鹿市医郷壇



地

精一杯じゃ常時じゅうじゆ言訳んサボイ奴
(唱) 他人ん前でな忙し真似もしつ
(評) 他人が見ている時に限つて、精一

杯仕事をしている振りをする人がいます。
特に急な仕事を頼まれても、精一杯仕事をして忙しいので、余計な仕事は手が回りませんと、言い訳をして、上手に断り陰で遊んでいます。

511 樋口一風選

同僚は彼のことを「サボイ奴」と、陰で呼んでいます。

兼題「精一杯(せつペ)」

天

我が仕事つ精一杯頑張つて今が在つ
(唱) 倦いが人生や後悔どま無かち
(評) 石原裕次郎の「我が人生に悔いはない」という歌を思い出せます。

医療という天職に精一杯頑張つてきました。順風満帆であったかどうかわかりませんが、これまでの人生には逆風も吹いたあります。それも乗り越えてきたという、自負心があります。

「精一杯頑張つて今が在つ」に、やり遂げた男の達成感が詠まれています。

初化粧精一杯塗つたで見事に見えつ
(唱) べつさい鼻も凄ぜ高こ見えつ
(評) 初めてのお化粧というのは成人式か、先に決まった友人の結婚式かでしょうか。

何せ、初めての化粧というのは、どうなるだらうと、キドキするものでしょ。プロの手にかかると、「鬼瓦にも化粧」という失礼なことわざもあるように美しくなりました。

(御嬢さんの)ことを「御嬢さあ」と言います。

五客三席 伊敷支部 谷山五郎猫
低か背を精一杯伸ばせつ健診曰
(唱) 身長計が無理ゅばすんなち
五客四席 紫南支部 一軒茶屋電停
病状を精一杯言たどん他人事
(唱) 考げ事つしつまた聞つ直えつ
五客五席 飛脚子一郎
菓子が良ち母ん精一杯な飯しゃ食わじ
(唱) 親ん愛情も子いな分らじ

ヒジのび、鹿児島では面の皮の厚い人のことを、「だつきゅつら」という。そのだつきゅづらが風田にはいつて、亀の子束子で顔をこすつたのであるが、さすがの束子も歯が立たなかつたのである。誇張法で、面白く皮肉つた句。

ヒジのび、鹿児島では面の皮の厚い人のことを、「だつきゅつら」という。そのだつきゅづらが風田にはいつて、亀の子束子で顔をこすつたのであるが、さす

秀逸

清滝支部 鮫島爺兒医

運動会精一杯走つて賞を貰うつ
飲んで精一杯働れつ今元氣
食べて精一杯頑張つて健し爺
宿題ゆば精一杯頑張つて寝や軒
狂句を捻つ精一杯考げつやい壊えつ

薩摩郷句鑑賞 150

薩摩狂句歴から

何ゆ着てん短け喉首ば晴れをせづ

別に太つていて、猪のよつた首をしているのでもあるまいが、人間生まれつき

首の太い人、細い人、長めの人、短めの

人がいるわけであるが、()の場合、多分

短くて太い首である。

特に女性の場合、細めで長い首だと、和装など実に品の良いもの。それが、「何

ゆ着てん」だから、和服を着ても洋服を

着ても、見ばえがしない自分を、姿見に

写しながら溜息をついているのである。

女性の気持ちをうまく詠んだ句である。

薩摩郷句募集

上町支部 吉野なでしこ

伊敷支部 谷山五郎猫

若こなろち精一杯筋トレ励ん夫婦
良う似合ち精一杯氣の弱え亭主す褒めつ

初デート茶でんち精一杯誘つみつ
飛脚子一郎

辣韭面擦れば束子が擦い切れつ

柿元棕相緒

ばつばつ新しいラッキョウが出まわる
頃である、掘りたてを酢味噌で食べるよ、
誠においしいものである。

五客一席

清滝支部 鮫島爺兒医

横綱い精一杯当たつて弾かれつ
(唱) 悔し涙が伸つ芽ん肥料

五客一席 上町支部 吉野なでしこ
お菓子しゅ絶つ鏡む見どえつ精一杯な態
(唱) 横から見たいポーズどん取つ

五客三席 伊敷支部 谷山五郎猫
低か背を精一杯伸ばせつ健診曰

(唱) 身長計が無理ゅばすんなち
五客四席 紫南支部 一軒茶屋電停
病状を精一杯言たどん他人事

(唱) 考げ事つしつまた聞つ直えつ
五客五席 飛脚子一郎
菓子が良ち母ん精一杯な飯しゃ食わじ

(唱) 親ん愛情も子いな分らじ